

つるあや
鶴綾の和姿わすがた浮かぶ久保田の酒き

こしじ
越路の縁えにし 兄さまと聞あにく

令和六年三月四日

大中臣正比呂



隠れ家で久保田を飲んだ。くぼた 盃さかずきに浮かぶ君は「兄さま」と呼びかけてくる。

越後の旅で知り合って縁を結べば、土地では兄さまと呼ばれるのだ。

お座敷の背後に灯り射す空間は、美人をつくるらしい。